

2022 年度 入学試験問題

国 語

(1 科目 100 点 50 分)

2022 年 2 月 9 日 (水) 1 時限目実施

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この注意事項は、よく読んでください。
3. 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせてください。
4. 次のことには十分注意してください。
 - ① 解答用紙には、受験番号を記入することを忘れないこと。
 - ② 答えはすべて解答用紙に記入すること。
 - ③ 不正行為はしないこと。

解答については、間違いのないように十分注意し、記入してください。

東 奥 義 塾 高 等 学 校

- 放送をよく聞いて、問いに答えなさい。
※メモを取ってもかまいません。

〔問題は次のページに続きます〕

□ 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

縄文について、想像をふくらませてみましょう。「なんでこんなにまで鍋、釜を縄の目の模様で飾らなくてはならなかったのか」という問いです。そこでもう少しくわしく^{もしよう}文様について考えてみると、一つの共通した傾向が見えてきます。それは「うずまき」文様の存在です。

①うずまき。それは今も昔も私たちの身近にとっても多く見つけることができます。子供の頭を見ると、まずつむじがうずまきです。赤ん坊を抱くと、このうずまきしか親の目には入ってきません。ここではうずまきは大切な愛するもの、かけがえのないものと一つになって存在しています。水道の蛇口から勢いよく出た水が排水口へ流れる形もうずまき。これはあまりになじみがありすぎ、言われないと気付かないかもしれませんが。しかしここにおいてうずまきは、大自然の法則と共にあります。巻貝を真上から見ると、これはもう完全なうずまきです。このうずまきは美と同義です。花を真上から見ます。すると葉や花びらはらせん状、即ちうずまきのように芽をふきながら順番に生えてくることに気付きます。この場合は、はかなく、いとおいしい生命としてのうずまきです。

もしかするとうずまきは、この世の中の不思議なこと、大切なこと、美しいこと、自然なことに共通する根本存在かもしれません。そのことを縄文人たちは考えていたに違いないのです。ですから、そのうずまきを自分たちのつくった土器に描くということは、むしろ極めて自然な行為と考えるてもよいでしょう。そのようにして、自分たちがつくった人工物を②宇宙の現象や事物と一体化させていったわけです。それで大切な食料を煮炊きしたり、実を貯蔵するということは、実にすばらしいことではないでしょうか。

人里離れた地において、私たちは夜になると満天の星々の中にいることに気付きます。そして、いやでもここが宇宙だと感じるのですが、寝ころんで空を見てみると、体が軽くなって宇宙に浮んでいような気になることさえあります。③縄文人にとってはそれが日常だったのです。日々の瞬間に、宇宙の中で自分が生きていると感ずります。天の怒りのような竜巻きや冬の木枯らしなどのふとした出来事、へびがとつろを巻いているそのおそろしい様子など、うずまきは^{しんらんしょう}森羅万象の様々な形となつて彼らの前にあらわれている……。④それを自らの造形物に描きしるし、⑤その力を借りようとすることに、何の不自然があるでしょう。

私は⑥このようなことから、縄文土器のほとんど全ての装飾模様はうずまきを基本にして展開していったと考えています。作り手は、うずまきをタテにのぼしたり押しつぶしたり横にのぼしたりしながらその間を埋めていく。そのa過程で点を打ったり線を引くなどの新たなb意匠がひらめいたり、いろいろな形に変形させたりして、様々に発展させていったのだらうと推測しています。

※1 文様：模様。

※2 森羅万象：宇宙のあらゆる存在や現象。

問一 二重傍線部 a 「過程」・ b 「意匠」を、ほとんど同じ意味を表すカタカナ語にしなさい。ただし、それぞれの最初の一字は解答用紙に記入されています。

問二 傍線部①「うずまき」の具体例として挙げられているものが、同じ段落にいくつかあります。その中から二つを答えなさい。

問三 傍線部①「うずまき」を、筆者はどのようなものだと考えていますか。四十字以内で抜き出し、最初と最後の四字を答えなさい。

問四 傍線部②「宇宙の現象や事物と一体化」とありますが、縄文人たちがそのようにするために行ったことは何ですか。二十字程度で答えなさい。

問五 傍線部③「縄文人にとってはそれが日常だったのです」とありますが、どのようなことが「日常」だったのですか。最も適当なものを、次のア～エの中から

一つ選び、記号で答えなさい。

ア 人里離れた地で満天の星空を見ることができること。

イ 自分のいる場所が宇宙空間なのだと錯覚すること。

ウ 満天の星空を見て宇宙に浮いている心地がすること。

エ 自分が宇宙の中で生きているのだと実感すること。

問六 傍線部④「それ」と傍線部⑤「その」の指示する内容を、それぞれ四字で答えなさい。

問七 傍線部⑥「このようなこと」とはどのようなことですか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア うずまきが、この世の様々な現象や事物に現れているということ。

イ うずまきは大自然の法則と共にあり、美と同義だと考えられること。

ウ うずまきには、人間にはない力が備わっていると考えられること。

エ うずまきを見ることで、自分が宇宙の一部なのだと感じること。

〔問題は次のページに続きます〕

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

「僕」は病院で過おたひでましている中学一年生の大谷英樹、十三歳。幼い頃同じ病室の子が突然いなくなるたびに、大人は「お星さまになった」と答えた。そのため、英樹は夜になるとずっと星を眺めるようになり、いつしか天体観測が趣味になっていった。英樹の入院する病院のリハビリセンターに、腰の持病を抱えた「おじさん」(水島健一、みずしまけんいち四十六歳。何事にも無気力。パーティーなどに料理を調達する仕事をしている。)が通い始め、二人は出会う。リハビリに疲れた健一は、自分で作ったサンドイッチが食べられずにいる。そのサンドイッチに興味を持った英樹は、健一にもらって美味しそうに食べる。普段食の細い英樹がそのようにものを食べるのは珍しく、英樹の母は驚くとともに喜ぶ。

おじさんにサンドイッチの札を言って、僕は母さんとペランダに出た。【ア】

金網から一メートルほど手前の定位置で、母さんが車椅子を止めた。

英樹は双眼鏡を夜空に向けた。北極星を捉とらえてから、ほかの星々を確認していく。

もう星座板を見なくても、大抵の星の名前や星座はわかる。以前はそうした一つひとつの星の名前を言い当てるのが好きだった。でも最近は①自分のいる場所と宇宙の大きさを比較する遊びがお気に入りだった。今自分は東京にいて、それは日本の一地点で、地球という星の一カ所。その地球は太陽系にあるけど、その太陽系の中では端っこにいます。その太陽系は銀河系の端にいて、周りには約二千億個の星々が存在していた。その銀河系は宇宙の中のほんの一部で、一兆個もの銀河とともに浮かんでいる――。

そうやって、どんどん自分の存在の小ささを思い知らせる。そうすれば、自分の悩みがちっぽけに感じられるようになって、気持ちも少しだけ軽くなった。

双眼鏡から目を離して、母さんを振り仰いだ。

英樹と色違いのピンク色の双眼鏡で、空を見上げていた。

母さんは僕が少しでも興味を持ったものを、同じように好きになろうとする。そして②自分も興味があるという演技をした。でもそれは失敗している。本当に好きだったら、星の名前や位置が覚えられるはずなのに、母さんにはそれができなかった。何度も同じ星の名前を尋ねるから、ある日十回は教えたよと言うと、母さんは慌あわてたようにごめんなさいと謝った。その日を境に母さんは星について尋ねてこなくなった。英樹が星を観察している間、今のように黙って双眼鏡で空を覗のぞくだけになった。

担当医の堺さかい先生の話はなんだったのだろう。聞けば、きっとなんでもないのでか、いいお嬢さんがいるから紹介しようかと思つてとか、そういう(A)を並べる。だから聞かない。

同じように英樹も(B)を吐いた。手術を受けるのは嫌でも、慣れているから平気だと言つたり、いい検査結果が出ないとわかっていても期待するようなことを言つたりする。

英樹の家族は嘘を吐きあう家族だった。それでも僕は両親が好きで、父さんが自分の父さんで、母さんが自分の母さんで良かったと思つている。

「やっぱりここだったか」と、父親の繁幸しげゆきの声がした。

ラウンジからベランダに出てきながら父さんが話す。「病室にいなかったから、ここで天体観測してるんじゃないかと思ってさ」

「今日は早かったのね」と母さんが言い、早速父さんにサンドウィッチのことを報告し始める。【イ】

父さんが嬉しそうに「へえ、餡あんこ入りのを」と言い出した時には、もうその話をしたくなかったので、双眼鏡を空に向けて星に夢中になっているふりをした。

「そういえば」と父さんが言い出したのは、それからしばらく経ってからだった。【ウ】

「明日いたる君が来るんだったな」と確認してきた父さんに、僕は空を見上げたままで「うん」と答える。

さらに「会うの久しぶりだから、楽しみだな」と言ってくる父さんに、③「まあ、うん」と言葉を濁した。

いたると顔を合わせるのは半年ぶりだけど、ラインでしょっちゅう話をしているので、久しぶりという感覚はなかった。英樹と同一年のいたるも長期入院患者で、院内学級ではいつも机が隣だった。半年前にいたるは退院し、四月からは普通の中学校へ通い出した。星にならずに病院からいなくなるのは、英樹の周囲では滅多にないことだった。とても楽しそうだったいたるの様子が一変したのは五月に入ってからだった。いたるのなにかが同級生たちに拒絶されたようだった。クラスの全員からシカトされているといたるは言い始め、最近では病院に戻りたいとまで言ってくるようになった。すると、ライン仲間だった二人の女子入院患者が「ちょっとないわ」と言っただけで抜けてしまった。それでラインは英樹といたるだけになった。

いたるは言う。病院は安全だと。外の世界は危険で、色々気を遣わなくちゃいけないくて、心がすり減ると。普通の学校へ行きたいとずっと思っていたけど、行ってみたら全然楽しい場所じゃなかったとも。

英樹は小学校二年生の時、四カ月だけ普通の学校に通った経験がある。危険でいっぱい場所だったのか、楽しい場所だったのかよく覚えていない。ただ担任の女教師が、いい匂いがしたことだけははっきりと記憶していた。香水というものを付けていたのだ。病院では滅多に嗅ぐことのない種類の匂いだった。

英樹はよくいたるにラインで尋ねた。今どんな匂いがするかと。そんな時、いたるはなにも匂わないか、変な酸っぱい臭いとしか書いてこなかった。それはいつも英樹をがっかりさせた。

明日いたるが持つて来るのは、わくわくするような外の世界の情報じゃないだろう。ラインでいつも言っているような、不満や悩みに違いない。だから父さんが言うように、いたると会うのを楽しみには思えず、どちらかというところが重かった。

あいつも、星を眺めて宇宙の大きさを感ぜられたらいいのに――。天体の本も双眼鏡も貸してやったけど、なんかよくわからないと言われただけだった。

英樹は最近気に入っている天体の一つ、月に双眼鏡を向けピントを調整する。下弦から三日進んだ月では、アペニン山脈は見えなくなっていた。アポロ15号が調査したハドレー谷の近くにあるこの山脈の険しさは、地球上からも見て取れ、怪しげな雰囲気があった。

静かで不気味な月を英樹は眺め続けた。

「これ旨いね」と英樹に言われた途端、健一の心はぱっと明るくなった。同時にそんなことで喜んでいる自分を意外に思う。

リハビリセンターのラウンジで何度か顔を合わせる度に、英樹は健一の手作り弁当に興味津々といった様子を見せた。病気のガキにそんな顔をされたらあげないわけにはいかず、お裾分けすそわしてやるようになった。生意気に「これは今一つだ」とか、「塩が足りないんじゃないの」などと言うので、車椅子のタイヤをパンクさせてやろうかと思ったりもするのだが、たまにこんな風に幸せそうな顔で旨いと言われれば、胸の真ん中がじんわりと温かくなった。【エ】

さらにとりかかると、どっちかというところの方が大きいような気もするのだが、英樹が食べるのを嬉しそうに見つめる彼の母親のせいでもあった。英樹が健一の手料理を食べただけで、奇跡が起きたとでもいうように感動したような表情を見せた。そして有り難うございませうと健一に何度も言うのだった。その感謝ぶりはちよつと大袈裟おおげさで、恥ずかしくなるほどだった。しかし心の底では、なんだかいことをしたような気分にもなつて満更まんごうでもなかった。

そもそも弁当作りは、商売あがったりで食事代を抑えるために始めたことだったが、最近では用意する時、④まず英樹は食べられるだろうかと考えるようになっていた。どんな病気だか知らないが、長期入院している様子からいって、肉などのパンチのあるものより消化し易いものの方がいいだろうと、メニューを決める時に英樹を考慮していたりする。

今日は鮭握りとだし巻き卵だった。塩味の強そうな鮭が冷蔵庫に残っていたので、昨夜のうちに昆布で挟み、それをキッチンペーパーで巻き、冷蔵庫に入れておいた。そうして用意しておいた鮭を焼き、握り飯の具にした。この前日の仕込みによって、余分な塩と臭みが取れ味がまるやかになるのだ。普通の握り飯のサイズだと英樹には大き過ぎるだろうと判断し、ピンポン玉サイズにした。

出典 桂望実『僕とおじさんの朝ごはん』

問一 傍線部①「自分のいる場所と宇宙の大きさを比較する遊びがお気に入りだった」とありますが、それはなぜですか。本文中の語句を用いて、四十字以上六十字以内で答えなさい。

問二 傍線部②「自分も興味がある」という演技をした」とありますが、英樹はなぜ「演技」と判断したのですか。その根拠がわかる一文を本文中より抜き出し、始めの五字を答えなさい。

問三 文中の空欄(A)(B)に共通する漢字一字を、本文中より抜き出して答えなさい。

問四 傍線部③『まあ、うん』と言葉を濁した」とありますが、英樹はなぜ言葉を濁したと考えられますか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア いたると顔を合わせるのは半年ぶりだが、両親の目を盗んでラインでしょっちゅう話をしており、特に珍しくもなかったため。
- イ 星にならずに病院からいなくなるのは滅多なことであり、普通の学校に通ういたるが英樹にはとてもうらやましかったため。
- ウ 過去に天体の本や双眼鏡を貸した際、よくわからないと言っていたには、宇宙の大きさなど理解できないと感じていたため。
- エ 明日いたるが口にするのは、ラインで言うような不満や悩みに違いなく、英樹はいたると会うことに気の重さを感じていたため。

問五 次の一文は、本文中の【ア】～【エ】のどこに入れるのが適当ですか。最も適当な箇所を選び、記号で答えなさい。

ただサンドイッチを食べただけなのに、それがニュースになってしまつのが、なんだか恥ずかしくて不機嫌になりそうになる。

問六 傍線部④「まず英樹は食べられるだろうかと考えるようになっていた」とありますが、健一がそのような背景として、適当でないものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 「病気のガキ」である英樹がラウンジで顔を合わせるたびに、健一の手作り弁当に興味津々という様子を見せること。
- イ 英樹が生意気に「これは今一つだ」とか「塩が足りないんじゃないの」と言うたびに、健一に闘志がわいてくること。
- ウ 健一の手料理を英樹が食べると、英樹の母親が感動した表情で健一に何度も礼を言い、大袈裟なほどに感謝すること。
- エ 弁当をお裾分けした時に、英樹に幸せそうな顔で「旨い」と言われると、健一は胸の中がじんわりと温かくなること。

〔問題は次のページに続きます〕

四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。なお、解答にあたっては句読点や記号も一字として数えることとします。

今は昔、唐に、^{※1}孔子、道を行き給ふに、八つばかりなる童あひぬ。①孔子に問ひ申すやう、「日の入る所と^{※2}洛陽と、いづれか遠き。」

と。孔子いらへ給ふやう、「日の入る所は遠し。洛陽は近し。」童の②申すやう、「日の出で入る所は見ゆ。洛陽はまだ見ず。されば、③日の出

答えなさいには、

子どもが申し上げるには、

づる所は近し。洛陽は遠しと思ふ。」と申しければ、孔子、④かしこき童なりと感じ⑤給ひける。

申したので、

感心なす。

【A】にはかく物問ひかくる人もなきに、かく問ひかくるは、⑥ただ者にはあらぬなりけり」とぞ人いひける。

このように物を問いかける人もいないのに、

出典 『宇治拾遺物語』

※1 孔子……中国、春秋時代の思想家。儒家の祖。

※2 洛陽……中国、周時代の首都。

問一 傍線部①「孔子」とありますが、この人物の言行録を弟子がまとめた書物を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 論語 イ 韓非子 ウ 史記 エ 三國志

問二 傍線部②「申すやう」⑤「給ひける」の読み方を、送り仮名も含めて、すべてひらがなの現代かなづかいで答えなさい。

問三 傍線部③「日の出づる所は近し。洛陽は遠しと思ふ」とありますが、このように思う根拠を、二十字程度で答えなさい。

問四 傍線部④「かしこき童なり」とありますが、どのような点に感心したのですか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 孔子に対しても、恐れることなく堂々と質問したうえ、言い負かした点。
- イ 誰も気づかないような孔子の誤りに気づき、恐れることなく指摘した点。
- ウ 自分の考えをしっかりと持って孔子に質問し、彼なりの考えも表明した点。
- エ 自分の誤りを指摘されても動揺せず、素直に受け入れることができた点。

問五 傍線部⑥「ただ者にはあらぬ」とありますが、これは誰をさしていますか。最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 孔子
- イ 八歳くらいの子ども
- ウ 洛陽
- エ 人々

問六 空欄【A】に当てはまる人物を、漢字で答えなさい。

〔問題は次のページに続きます〕

【五】 次の各問いに答えなさい。

問一 次の①～⑥の傍線部のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに、それぞれ書き改めなさい。

- ① 新しい競技にチヨウセンする。 ② 困難をコクフクして出場権を得る。 ③ 彼を選手団の団長にオす。
④ オリンピックが開幕した。 ⑤ 試合結果の速報を見る。 ⑥ 競技の観戦者を募る。

問二 次の①～④と関係の深い言葉をア～オから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 頭が切れる ② 頭に血が上る ③ 顔つき ④ 顔から火が出る
ア 羞恥 イ 逆上 ウ 表情 エ 鋭敏 オ 限界

問三 次の①～③の空欄には色を表す漢字が入ります。()内の意味を参考にして、それぞれ適当な漢字一字を書きなさい。

- ① 世界(雪が一面に降り積もった景色) ② 字塔(優れた業績のこと) ③ 色い声(かん高く騒々しい声)

問四 次の①～③の敬語の使い方として正しいものをア・イから選び、それぞれ記号で答えなさい。

- ① 私がこれから申し上げることを(ア うけたまわって イ お聞きになって) ください。
② 別室に食事をご用意しました。どうぞ(ア 召し上がって イ いただいて) ください。
③ 私はゴッホと棟方志功が好きです。ぜひあなたの絵も(ア ごらんになりたい イ 拝見したい)。

【問題はいこれで終わります】

国語解答用紙

※印の欄には何も記入しないこと

| | |
|------|------|
| 3 問三 | 3 問一 |
| | |
| 3 問四 | 3 問二 |
| | |

| | |
|----------|------|
| 2 × 2 問一 | 25 点 |
| a ブ | |
| b デ | |

| | |
|----------|------|
| 2 × 2 問二 | |
| | |
| 3 問三 | 3 問三 |
| | |
| 4 問四 | 4 問四 |
| | |

| | |
|----------|------|
| 3 問五 | |
| | |
| 2 × 2 問六 | 3 問七 |
| | |
| 4 問四 | 3 問五 |
| | |
| 3 問三 | 3 問六 |
| | |

| | |
|------|------|
| 4 問一 | 19 点 |
| | |
| 3 問二 | 3 問三 |
| | |
| 3 問二 | 3 問四 |
| | |
| 3 問二 | 3 問五 |
| | |
| 3 問二 | 3 問六 |
| | |

| | |
|----------|------|
| 3 問一 | 18 点 |
| | |
| 1 × 2 問二 | 3 問三 |
| | |
| 3 問一 | 3 問四 |
| | |
| 3 問一 | 3 問五 |
| | |
| 3 問一 | 3 問六 |
| | |

| | |
|------|------|
| 3 問四 | |
| | |
| 3 問五 | 3 問六 |
| | |
| 4 問三 | 3 問七 |
| | |

| | |
|----------|------|
| 1 × 6 問一 | 26 点 |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |
| ⑤ | |
| ⑥ | |

| | |
|----------|--|
| 2 × 3 問二 | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |
| ④ | |

| | |
|----------|--|
| 2 × 3 問三 | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

| | |
|----------|--|
| 2 × 3 問四 | |
| ① | |
| ② | |
| ③ | |

| |
|------|
| 受験番号 |
| |
| ※ |
| |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|-----------|---|---------|---|----------|---|------------|---|------------|---|----------|---|------------|---|----------|---|------------|
| ※ | 五 問二三四 | ※ | 五 問一 | ※ | 四 問二三 | ※ | 四 問一四五六 | ※ | 三 問三四五六 | ※ | 二 問一二 | ※ | 二 問三四五七 | ※ | 二 問二六 | ※ | 一 問一二三四 |
|---|-----------|---|---------|---|----------|---|------------|---|------------|---|----------|---|------------|---|----------|---|------------|

これから放送による聞き取りのテストを行います。

はじめに、解答用紙を出して、受験番号を決められた欄に記入してください。

間 5秒

次に、問題用紙の1ページを開いてください。

間 2秒

四角1は、放送を聞いて質問に答える問題です。内田樹さんのブログ『内田樹の研究室』の一節を読み、次にその内容についていくつかの質問をします。文章は一回しか読みませんので、必要に応じてメモを取ってもかまいません。約一分後に開始しますので、問題用紙や解答用紙に不備があった場合には、試験監督に申し出て交換してください。

間 1分

それでは、始めます。

間 2秒

よくAIのシンギュラリティが話題になりますけれど、それ以前にテクノロジーの進化が速すぎて、それに社会制度が対応できず、市民たちがさまざまな不利益をこうむるといふ事態が到来しそうです。

たぶん、こういう話をするとき「だから時代の変化に最適化した方がいい」といふふうに思って、つい浮足立つと思いますけれど、僕からみなさんへのアドバイスは「浮足立つな」といふことです。慌てたり、焦ったり、恐れたりという精神状態で下した判断はだいたい間違っています。「テクノロジーの進化なんかどうだっていいじゃないか。それはそれ、これはこれ」といふ腹の括り方をしていた方がいい。そうしておかないと、うっかりすると、この先一生回し車の中を全力疾走するハムスターのような生き方をしなければならなくなります。

社会全体が浮足立っているときに必要なのは「胆力」です。たいせつなことなので、もう一度言います。みなさんに必要なのは胆力です。胆力というのは、「驚かされないこと」です。危機に臨んで肝をつぶして、白目を剥いて、腰を抜かさなないことです。そのためにはどうすればいいか。簡単なんです。こまめに驚いていけばいい。「驚く」といふのは能動的な働きです。「驚かされる」といふのは受動的な経験です。向きが180度違います。「驚く」とは、ほんのわずかな変化の徴候に気づくことです。

「風の音にぞおどろかれぬる」人は、他の人より早く秋の気配を感知して、驚いている。だから、他の人たちが秋の到来に気づかず薄着のまままで過ごして風邪をひいたりしているときには、すでに秋シフトを済ませている。できたら毎日「おや、こんなことが」と驚いている方がいい。別にテクノロジーのイノベーションとか国際政治の変動の話をしていだけじゃありません。四季の変化や人心の移り変わりに日々「驚かれぬる」ことを通じて「驚く」訓練をするのがいちばん手堅いやり方です。そうやってこまめに「驚いている」と、地殻変動的な変化にはずいぶん早くからそのさまざまな予兆があることに気が付きます。日々のその予兆を見逃さずに備えをしておけば、世間の人々が腰を抜かすときに、涼しい顔をしていられる。それが「胆力がある」といふことです。何が起きて何とも感じないということではありません。間違えなideてくださいね。ロラン・バルトというフランスの哲学者が「知性とは驚く力のことである」といふ言葉を残しています。ぜひ心に銘記しておいてください。

間 3秒

それでは質問にうつります。質問は二回繰り返します。解答は全て解答用紙の決められたところに記入してください。

問 3秒

問一 社会全体が浮足立っているときに必要なものは何ですか。

問二 社会全体が浮足立っているときに必要なものは何ですか。

問 15秒

問一 「驚く」と「驚かされる」のうち、能動的な働きにあたるのはどちらですか。

問二 「驚く」と「驚かされる」のうち、能動的な働きにあたるのはどちらですか。

問 15秒

問三 フランスの哲学者ロラン・バルトは、知性とは何だと言いましたか。次の1・2・3・4の中から

一つ選び、数字で答えなさい。

1 胆力 2 驚かされる 3 能動的な働き 4 驚く力

問三 フランスの哲学者ロラン・バルトは、知性とは何だと言いましたか。次の1・2・3・4の中から

一つ選び、数字で答えなさい。

1 胆力 2 驚かされる 3 能動的な働き 4 驚く力

問 20秒

問四 筆者の意見に合うものを、次の1・2・3・4の中から一つ選び、数字で答えなさい。

1 テクノロジーの進化に遅れて不利益を被らないように、時代の変化についていくべきだ。

2 腹を括つていれば、一生回し車の中を全力疾走するハムスターのような生き方ができる。

3 こまめに驚いて、日々の予兆を見逃さずに備えをしておけば、いざというときに慌てない。

4 「胆力がある」とは危機に臨んでも驚かされず、何が起きても何も感じないことである。

問四 筆者の意見に合うものを、次の1・2・3・4の中から一つ選び、数字で答えなさい。

1 テクノロジーの進化に遅れて不利益を被らないように、時代の変化についていくべきだ。

2 腹を括つていれば、一生回し車の中を全力疾走するハムスターのような生き方ができる。

3 こまめに驚いて、日々の予兆を見逃さずに備えをしておけば、いざというときに慌てない。

4 「胆力がある」とは危機に臨んでも驚かされず、何が起きても何も感じないことである。

問 15秒

これで放送によるテストを終わります。あとの問題を続けて解答してください。